

青少年育成センターだより

第27号 平成29年9月



今、子どもたちに伝えたいこと

先月29日に防府市文化福祉会館で「平成29年度第一回防府市人権学習セミナー」が開催され、「今、子どもたちに伝えたいこと～子どもの目線から『人権』を考える～」という演題で、山口大学の霜川正幸さんによる講演がありました。

子どもの育みや関わり方について、とても参考になる話がありましたので、ここで紹介をします。



- 1 学校では、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の三つの生きる力を育てる教育が行われている。どれも大切な力であるが自分としては、「豊かな人間性」が一番大切だと考える。宗教には戒律性や規律性があり、それにより行動が規範されるのであるが、日本は宗教性の薄い国であるので「豊かな人間性」を育むため、心の教育に力を注ぐことが大切だと考えている。
- 2 他人を攻撃（いじめや差別等）することを許さない心情を育てなければならない。学校では道徳や人権学習の中で教えているが、家庭や地域でも教えなければならない。
- 3 他人から攻撃（いじめや差別等）を受けた場合は、その攻撃を跳ね返す力をつけてやらなければならない。小さい時から自分のことは自分で守るという力を身につけさせることが大切である。
- 4 大人は、子どものできていないことに目が向きがちであるが、その子の良い面や得意な面、魅力等を認め、そのことを言葉で伝えてやるのが大切。子どもは良い面を伸ばすことで、弱点を克服することができるようになる。
- 5 「他者意識」（他人から見たら自分はどのように見えるのかということを感じる意識）を育てるには、毎日日記をつけること。一日を振り返らせることで自分のことが分かり、他人のことが分かるようになる。日記をつけながら、一日を振り返ることが内省（心の学び）を促すことになる。
- 6 小学生や中学生の時に豊かな体験をさせることが大切である。子どもたちにさせたい5つの体験がある。
 - (1) 自然体験・・・自然の前では人間の力だけではどうすることもできないことがある。人間の小ささを感じることができる体験をさせる。
 - (2) 生活体験・・・小さい時からお手伝いや係活動などの体験をさせる。受験生には、「手伝いはしなくてよい」と言うことはとんでもないことである。受験勉強と手伝いが両立できる子どもに育てないといけない。子どもには家族の一員としての役割を果たさせることが大切である。
 - (3) 我慢体験・・・「体の我慢」「物の我慢」「時間の我慢」等の我慢をさせること。我慢をするから成功体験がある。
 - (4) 内省体験・・・日記をつけること等。
 - (5) 感動体験・・・「芸術」「文化」「スポーツ」「自然」だけでなく、感動的な人に出会うということも一つの感動体験である。

霜川先生の中学校教員時代や現在の大学での教育現場の経験から、子どもたちに身につけさせなければならない力や私たち大人が子どもへどのように関わればよいかを話されました。1時間30分の講演でしたが先生の考え方に触れ、考えさせられました。途中笑いもあり、あっという間に終わったように感じられ、充実した講演会でした。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）